

■令和4年8月30日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和4年8月30日(火) 13:30~14:00
- 2 場 所 市役所本庁舎7階703号室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、デジタル変革調整監、市長公室長、
総務課長
○酒田記者クラブ6社(朝日新聞、読売新聞、山形新聞、荘内日報、
YBC、TUY)
○コミュニティ新聞社(記者クラブの承認により出席)

■市長発表事項

1 Digi田(でじでん)甲子園優勝報告について

市長/記者会見の日程を少し早めさせていただきました。といいますのも、今回のこの発表事項「Digi田(以下「デジ田」)甲子園優勝報告」は、今日の13時解禁ということになっておりまして、おそらく国の方でも今日、ほぼ同時刻に記者会見していると思います。

資料にもございます通り、内閣官房が主催いたします令和4年度夏のデジ田甲子園、このデジ田というのは、デジタル田園都市国家構想の略称だというふうに理解をしておりますが、この夏のデジ田甲子園に、山形県の代表として、エントリーをさせていただいた本市でありましたが、審査の結果、優勝ということでの連絡が入りましたので、記者会見をさせていただいたという次第でございます。

このデジ田甲子園でございますが、先程も申し上げました通り、国がデジタル田園都市国家構想を推進するために、地方公共団体を対象として、デジタル技術の活用によって地域の課題を解決して、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や、地域の産業振興につながる取組みを、内閣総理大臣が表彰をする制度でございます。今回が初めての制度かと思えます。

デジ田甲子園ですが、それぞれの部門、大きく2つに区分されております。1つが、デジタル技術の活用によって実際に課題を解決した取組みを表彰する「実装部門」、実際に装着すると書くのですが「実装部門」これが1つですね。2つ目は、課題の解決につながるアイデアを表彰する「アイデア部門」、この2つの部門がございます。

また、この「実装部門」の中は3つに区分されておりまして、①指定都市・中核市・施行時特例市等、②それ以外の市、③町・村、このように3区分されております。今回、酒田市が優勝いたしましたのは、実装部門の指定都市等を除く市の部分での優勝となります。

このたびの優勝という荣誉に輝きました本市の取組みでございますけれども、飛島スマートアイランドプロジェクトという取組みでございます。飛島に通信環境を整備して、島民及び観光客向けにスマートフォンから注文できるシステムを構築するとともに、小型の電気自動車、e-モビリティと言いますけれども、これを活用して個々の家々への配送サービスを実装化したものでございます。

詳細については、お手元にお配りをしております推薦調書と、それから、これから流させていただきますけれども、YouTubeに紹介動画が掲載されておりますので、そちらをご覧くださいと思いますが、まずは動画を流させていただきますと思います。

～飛島スマートアイランドプロジェクト紹介動画 視聴～

市長／ご覧になっていただけて分かるかと思いますが、今回のこの「飛島スマートアイランドプロジェクト」でございますが、飛島に住む若者の皆さんが、多くの関係者を巻き込んで、自分たちの島の課題をできることから変えていこうという取組みでございます。その意味では、本市のデジタル変革が目指す価値観を具体化してくれた、このように理解しております。

実はいま本市では酒田市のデジタル変革戦略というものを実施している最中がございますけれども、今回のこの夏のDigi 田甲子園の優勝を契機といたしまして、多くの市民事業者の皆さんが地域の課題解決に向けてチャレンジをして、デジタル技術を実装した新たな価値創造が行われて、誰もが住み良いまち酒田が構築される、実現できればいいなと、このように思っているところでございます。

先程、Digi 田甲子園は2つに区分されていて、1つの部門について3つの区分けがあるとお話しましたが、ネットで内閣官房のサイトを見てもらえば分かるのですが、全国から全ての部門で160の提案がありました。その中から酒田市が入る一般市の部分は43ほど提案があったのですが、その中からナンバー1の総理大臣表彰を受けることが決まったということでもあります。

今日、内閣府の方では、岡田直樹内閣府特命担当大臣、デジタル田園都市国家構想担当の大臣から、記者発表がなされていると、このように理解しておりますが、同時進行の形で、酒田市としても大変名誉なことがございますので、合わせた形で発表させていただいた次第でございます。よろしく願いをいたします。

記者／飛島では、合同会社とびしまさんやNTTさんなど、独自でいろいろな取組みを行っていましたが、具体的に、このスマートオーダーシステムいわゆる「うみねこちゃん」の部分が、評価されたということでしょうか。

市長／「うみねこちゃん」だけに限ったわけではなくて、まず最初にご存知の通り、住民の皆さんの意見懇談会、市政懇談会とかワークショップの中から、地域の課題が洗い出されたということ、出発点がそこだったということ、あわせて、我々行政としては、ご存知の通り飛島と内地とを結ぶ海底光ファイバーケーブル、これを敷設いたしました。

その効果を飛島の日常生活に生かしたいという中で、本市とそれからNTTグループの皆さんとで、国土交通省の補助事業「スマートアイランド推進実証調査事業」を令和3年度に実施しております。その延長上として、実装化に向けた事業を継続して今年度も行っているわけですが、そういった取組みを総合的に評価していただいたということかと思っております。補足があれば、本間デジタル変革調整監から、説明をしてもらいたいと思います。

デジタル変革調整監／今、市長からありました通り、総合的な評価をいただいたという

ものだと私も理解しております。

ご覧いただいております。お分かりになる方もいらっしゃると思いますけれども、技術的な部分を申し上げれば、ITの新たな技術を導入したわけでもありませんし、際立ってものすごいと驚くような技術ではないのですけれども、市長が申し上げた通り、島民のワークショップから始めて課題を解決した具体的な事例ということが、総合的に評価されたのかなというふうに理解しております。

記者／ワークショップで買い物が非常に不便だというような話は伺いましたが、島民や観光面の課題を整理し、オーダーシステムを使ったデジタル技術で解決した全体的な取組みが総合的に評価されたということ、その中を支えるものが光ファイバーケーブルで、その整備も含めての評価だということでしょうか。

市長／ご存知の通り、有機ELを活用した遠隔診療、これも実証実験でやらせていただいております。そういったものも全て包含した形で、このスマートアイランド化に向けて「飛島スマートアイランド推進協議会」という組織を立ち上げて、いろいろ協議をしておりましたので、そういった取組みが評価をされたということかと思っております。

記者／まだこれからだと思いますが、表彰式はいつでしょうか。

市長／まだ連絡がきてないのですが、近々中だという理解はしておりますが、決まり次第ご連絡いただけるということになっております。

記者／市長が表彰式に行かれるのでしょうか。

市長／はい。私も総理大臣から表彰を受けるなんてことは、もうこれが最初で最後だと思っておりますので、もし日程が許せば、ぜひ伺いたいなと思っております。

記者／首長の皆様が行かれるということでしょうか。

市長／どこが受賞しているかというのが分からないのですが、先程大きく2部門、それから1部門については3つの区分がありますから、4団体が行かれると思っております。

デジタル変革調整監／先程ホームページで発表があったようです。「実装部門」①指定都市・中核市・施行時特例市等⇒北九州市②市⇒酒田市③町・村⇒嬭恋村④「アイデア部門」⇒前橋市となっております。

記者／今回優勝ということですが、優勝を契機に今後の展開はありますでしょうか。

市長／まず1つ、飛島について言えば、先程の実装に関わる様々な事業をこれからも展開をしていく予定になっておりますので、今回の総理大臣表彰を弾みとして取り組んでいきます。例えば、今行っているのが帆船型のドローン、ドローンが船を動かす実証実験が行われています。スマートオーダーサービスやe-モビリティはこれからもずっと継続して進めて参りますし、最終的にはサービスでいうと、高齢者の見守りサービスだとか、それから、津波の被害の監視サービスだとか、養殖とか、或いは圃場の監視サービスだとか、そういったものについて、令和5年度以降かなと思っておりますけれども、行っ

ていきたいという計画になっているようでございます。

いずれにしても、令和6年度ぐらいまでかけて、今のこの事業の横展開事業を広めていきたいということで考えております。

それから、今回のこのような取組みがもっと他の地域にも広げていけたらいいかなと、このように思っておりますので、そこは今、酒田市のデジタル変革戦略の中で三つの柱を立てておりますが、地域のデジタル化、或いは市民サービスのデジタル化というものにこういったものがもっと繋がっていけばいいかなと思っております、他地域についても広げられるものは広げていければいいかなと、このように思っております。

記者／今回、山形県の代表ということでしたけれども、この部門には、県内で何団体ぐらい応募されているのでしょうか。

デジタル変革調整監／団体数は分からないのですが、酒田市以外にも応募があったということだけは聞いております。

■代表質問

1 いじめ重大事態の再調査委員会の設置準備状況について

記者／酒田市の中学生の自死事案をめぐる第三者委員会の設置準備、委員の選任を進めていらっしゃると思われるのですが、その進捗について今の状況をお聞かせください。

市長／7月31日に臨時記者会見を開かせていただきました。その中で、酒田市いじめ重大事態再調査委員会を設置して、再調査を行うということを表明させていただきました。そして、それを受けて8月9日の臨時市議会におきまして、この再調査委員会の開催に必要な経費を補正予算として提案をさせていただき、議会からの可決をいただいたところでございます。

補正予算の成立後に、速やかに委員の推薦依頼先であります各職能団体へ依頼文書を送付して、現在、各団体において候補者の選定作業を進めていただいている最中でございます。

一応、依頼文書の中では、その人選の回答期限を9月16日までとお願いをしております。各団体のご都合もあるわけですが、9月16日まで人選をしていただけないのではないかとこのように考えておりますが、難しい場合、9月16日までとても無理だという場合については、その旨をお知らせさせていただくことにしております。現時点では、まだその明確にそこまで難しいという話の連絡を受けておりませんので、9月16日以降を目途に少し考えたいと思います。

■フリー質問

1 いじめ重大事態の再調査委員会の設置準備状況について

記者／職能団体に依頼されているということでしたが、団体は何団体でしょうか。

市長／団体としては4団体です。個別の名称は控えさせていただきますが4団体です。

想定としては5人想定しているのですが、その5人になるかどうかも含めてですが今

のところまだ決まってはいないという状況です。

記者／その4団体というのは、以前お話されたような分野からでしょうか。

市長／はい、そうです。

記者／先日、丸山市長からお話があった通りだと思のですが、ご遺族の方から選任される委員の要望ということで、県外からというようなお話だったと思いますが、こちらの団体というのも県外でしょうか。

市長／はい。現時点では全て県外から人選をお願いしたいということで、文書としては発送させていただいていました。

記者／具体的に、この方というところで、ご遺族から直接そういった要望があったと思われるのですが、そういったものについて、ご意向に沿ったような団体の選び方をされているのでしょうか。

市長／具体的にご遺族からは、こういう方という指定は一切ございませんでしたので、そういう意味では全くゼロベースで、いわゆる知見のある方、その分野で長けた方の人選してくださいという要請の仕方をさせてもらっております。

記者／仮の話なのですが、前回、市教委の第三者委員会の人選の際は、ご遺族の方から異議の申し立てがあったと思います。そういったことが、例えば、今回その人選段階の9月16日までに決まるということだと思のですが、その段階で、この方々に決まりましたと市の方からお話されると思うのですが、その時点でまた異議があった場合はどうなるのでしょうか。

市長／それは要検討ですけれども、ただ、我々は全く利害関係がない方をという前提で選んでいますので、人選に対しては、これはあくまでも想定ですけれども、多分異議はないのではないかなと思います。もし仮に異議が出た場合については、改めて人選のし直しになりますので、立ち上げが遅れてしまいます。その辺のところを、ご遺族の方と十分話し合いをしながら、委員の人選については進めていきたいとこのように思います。

記者／9月16日までに出してほしいというのは、職能団体にということですけども、職能団体自体が県外にあるということでしょうか。

市長／そうです。

記者／16日までというと、今のところ想定は10月にはスタートさせたいと、そこは変わっていないのでしょうか。

市長／はい、そこは変わっていません。

記者／人選をオープン、発表する機会はあるのでしょうか。想定5人ということでしたが、そのうちの4人が4団体から選ばれるということでしょうか。

市長／弁護士さんについては2名を想定していますので、4団体の1団体はその弁護士さんの団体だということを理解していただければ、5人のうちの2人はその団体からの人選になります。

記者／その5人全て推薦された方ということによろしいですか。

市長／はい。

記者／基本的には16日にその5人が出揃い、市の方として問題ないと判断すれば、それで確定し、ご遺族に確認していくのか。

市長／はい、ご遺族に確認させていただいて、その上で委員の名前を出すかについては…

総務部長／相手方のご了解を得てからとなるが、その公表する方向で考えています。

市長／我々としては、オープンにしたいなと思っていますけれども、オープンにされたら困ると委員の皆さんから、もしそのような条件が出た場合には、少し考えなければいけないかなと思っていますが、我々としてはオープンにしたいと、このように思っています。

記者／今のところ、9月中に委員についてはオープンになる可能性があり、10月にスタートさせるということによろしいでしょうか。

市長／はい、そうです。

記者／人選が決まって公表できるとなったら、また9月中のどこかで市としての発表する場を設けるということによろしいでしょうか。

市長／はい、そうです。

■その他

- ・特になし